

学校教育目標・努力目標・学校経営の方針及び令和5年度学校目標について

(1) 校訓 「開拓 創造 協力」(昭和51年度制定)

開拓：自ら進んで事をなすこと。従来の考えややり方にこだわらず、新しいことをしようとすること。⇒ 当たり前を疑う

創造：新たに造ること。新しいものを造りはじめること。⇒ アップデート・改善

協力：ある目的のために心をあわせて努力すること。⇒ 互いに認め合い高め合う

(2) 教育目標

- ① 自立 ② 共生 ③ 社会貢献 (令和4年度制定)

(3) 努力目標(令和4年度制定)

- ① 自己の可能性を広げる生徒
② 対話と合意形成ができる生徒
③ 自分事として物事を捉える生徒

(4) 学校経営の基本理念

文武両道とその根底にある「和」

「子どもが行きたい・保護者が行かせたい・地域が応援したい・教職員が働きたい」
学校を目指して

(5) 学校経営の基本方針

関連法規、学習指導要領及び解説、青森県及び八戸市教育委員会の指導の方針と重点、生徒の実態並びに保護者・地域住民の願い等を踏まえて設定した教育目標の達成を目指す。そのために、「進取自律」子ども一人一人が学習する権利を保障するために、特別支援教育を要として、「自他の生命を大切にする思い」「夢」「母校第三中学校へのプライド」を育む。そして、先行きが不透明なこれからの社会を生き抜くために必要な生きる力の～確かな学力・豊かな心・健やかな体～を育むため、根底に「他者との調和」を据えた教育の充実に努める。

(6) 令和5年度学校目標

「自ら課題を見つけ、自ら学ぶ生徒の育成」

(7) 学校課題等

今の子どもたちが成人して社会で活躍する頃は、社会構造や雇用環境の変化が急激で予測困難な時代となっていることが予想されている。そういった先行き不透明な社会において、一層重要となるのは

一人一人が自立していることと

誰一人同じ人はいないことを理解し互いに認め合うこと

他の人のために力を尽くせる人材であること だと考えている。

本校生徒は、コロナ禍のためほとんどの教育活動を強く制限され続けてきたこともあり、自己肯定感につながる様々な体験や他者理解の在り方等についての体験に乏しい傾向が強いと思われる。この状況では、将来社会に出た際自分らしく生き抜くための力を備えることは難しい。また、様々な事象を自分事として捉えるものの見方考え方も十分に備わっているとは言えない。

そこで今年度は、教育目標を具体化した目標を設定して、課題解決に取り組むこととした。

今年度の具体的目標は以下のとおりである。

自立 学習の自立

共生 傾聴

社会貢献 自分を知る

(8) 学校目標具現化のための重点施策

- ・課題を自分事として捉えるための「問い」の工夫改善
(指示・指導を減らし支援・コーディネートを増やす)
- ・見通しをもち、目標達成までの具体的な計画を自ら考えるための場の設定。
- ・取組を振り返り、改善点を見出して次に生かすための場の設定。